

会報

山口七夕会

令和7年（2025年）1月

第56号

発行：会報編集委員会／事務局

題字/書・原野和夫氏



【龍福寺】

< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
山口市長年頭ご挨拶	4
山口市議会議長年頭ご挨拶	5
第10回山口七夕会親睦ゴルフコンペ八木重二郎杯の報告	6
令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」の報告	7
秋の紅葉ウォーキング 2024(谷中七福神巡り)	8
山口市の小中学校の英語教育の一端に触れて	10
【リレーコラム:ふるさとの味めぐり】	
～探求！山口を楽しむペアリング～	11
パラリンピック柔道女子 日本人初の金メダル 廣瀬順子	12
山口コア学園	13
女将劇場60周年～時代とともに～	14
御礼 山口きずな音楽祭 10+6	16
防長創作会「大作品展」～作楽作(つくることを楽しみとなす)～	18
“片付け”で未来が変わる 持続可能な山口を目指したい!!	19
【ふるさと大使より】	
「神田京子大独演会 in 山口～どこに住んでもできるんだ～」KDDI 維新ホールで待ってます!!	20
新入会員及び法人会員の皆さん	22
各種イベント等のお知らせ	23
<山口市役所より>まもなく完成！！山口市新本庁舎棟	24
投稿募集／公開会員名簿への掲載承諾のお願い／メールアドレス登録のお願い	25
事務局からのご案内／編集後記	26

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

会長挨拶

新しい考え方の七夕会に向けて



あけましておめでとうございます。今年は穏やかな新年を迎えました。今年が皆様にとって素晴らしい一年になることを祈っています。

さて七夕会も 26 年目に入り、会員数も増加してきました。一方で「もともとの七夕会は何だったのか？」という質問も増えてきています。「26 年前に三軒茶屋で・・・」という説明では七夕会は何なのか、何が魅力なのかははっきりしません。同郷（同市）の出身者が集まって故郷を懐かしむのは分かりますが、何かが足りない感じがします。七夕会をもっと魅力的に活動させる考え方はないのか、と思っている方も多いと思います。会長をやらせて頂いた最初は「やるぞ！」で就任しましたが、いざ七夕会は何をするのか？となると「わからない」のが実感でした。会則やその他の規則もあり、それに従って総会・懇親会等を「こなしていく」のは可能ですが、充実感がありません。なぜなのか？と考えてみました。

会ができる、そこに集う人々はきっと「何か手応えがある」という実感を求めると思います。この会のメンバーに自分が考えていることを訴えたい、その場を提供してもらいたい、賛同する人が中心になって、多くの賛同者を集めてほしい。などなど……。七夕会でも総会や懇親会での講演はとても役に立ちますし、毎年の総会で山口市長から今の山口市の実情を伺うのは価値があることです。ただ、いざそれをどう活かすのかになると「山口市の発展のため」といった無難な表現に落ち着き、「自分がやる」という実感に今一つという感じになってしまいます。実感とは「メリット」を感じることです。この会を使って何かイベントを成功させるとか、人を集める手段にするといった実際に活用できることが必要なのではないかと感じます。

山口の「もの」を三軒茶屋の催しの様に提供するのは大切なことですが、それだけでは不十分です。何か「こと」をする場所を提供できれば更に実感が湧くのではないのでしょうか？それは必ずしも物理的な場所でなくてもよく、人々の結びつきを売り込む空間的な場所でも充分です。七夕会に属しているから、こんなに人を集めることができた、こんな人と知り合いになれた、これだけの売り上げを達成できた、というのも実感の一つではないのでしょうか？七夕会を通じて何か「こと」を行い、結果として山口市の名前が売れ、出身者がメリットを得られるようなやり方はないのでしょうか？

すでに連絡手段としてメールがこれだけ普及している時に、メールをもっと活用して「こと」をするという考え方はないのでしょうか？七夕会の母集団は 900 人程度います。しかし現状活動しておられるのは 100 人にも満たしません。最初からの方々のほかに、途中から参加なさった方の中には退会された方も多いと思います。なぜか？そのあたりの問題点を今年は皆さんと話し合い、新しい活動方向を探りたいと思います。

新年にあたり、新しいご提案申し上げます。

令和 7 年（2025 年）1 月
山口七夕会 会長 秋草史幸

年頭ご挨拶



新年明けましておめでとうございます。令和7年の新春を迎え、秋草会長様をはじめ、会員の皆様方に謹んで新年のお喜びを申し上げます。また、平素から市政各般にわたり格別の御理解と御協力を賜っておりますことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年は、1月のニューヨーク・タイムズ紙の「2024年に行くべき52カ所」への選出や、11月のスイス観光賞の受賞など、本市が国内外から大きな注目をいただいた年でした。このことは、西の京としての歴史的な文化や昔ながらのまちの佇まいを評価いただくとともに、そこに住む市民の皆様の日々の営み、暮らしぶり、人の温かみなど、言わば地域における当たり前の日常、ありのままの山口市の姿を高く評価いただいたものと考えており、私自身大変うれしく感じたところです。同時に、依然として続く物価高から市民の皆様の暮らしと地域経済を守り抜くための経済対策をはじめ、全国的に頻発化・激甚化する災害から市民の

皆様の生命や財産を守る防災・減災対策を加速化させるなど、市民生活の安心を守る取組を全力で進めた1年でした。

そして、迎える本年は「再生と変化」を象徴する「巳（み）」の年にあたります。本市もこれまでのまちの在り方を大切にしながら、時代の変化に柔軟に対応し、新たな成長を目指してまいりたいと決意を新たにいたしました。また本年は、新市発足20年を迎える節目の年でもあります。これまで取り組んでまいりました「都市も農山村も、ともに元気なまちづくり」を着実に進めるため、農山村エリアをはじめ、山口・小郡の社会基盤の整備を図ることで県都としての求心力をさらに高めながら、住み慣れた地域でずっと住み続けられる地域づくりや、安全安心で快適に暮らせるまちを目指した取組を進めてまいりたいと考えております。

山口駅周辺では、5月に新本庁舎の供用開始を予定しております。そして現在の本庁舎跡地においては、市民交流棟や広場の整備を進めてまいります。この広場を、亀山の豊かな緑やサビエル記念聖堂の白い鐘塔、そして四季折々に美しい彩を見せるパークロードの景観に合わせ、自然と調和した、ここにしかない市民の憩いの空間として、亀山周辺・中心商店街ゾーンのまちづくりを含め、やまぐちの暮らしと賑わいを支える都心形成につなげてまいります。また、旧小郡駅である新山口駅周辺では、優れたアクセス性や施設機能により高い稼働率を誇る「KDDI 維新ホール」を中心に、新たな交流やビジネスの創出に向けた取組を進めてまいります。さらに、令和8年に開催予定の国内最大級の大型観光キャンペーンであるデスティネーションキャンペーン（DC）に向けて、本年はプレDCが開催されます。プレDCでは、旅行会社等に観光素材をPRし、旅行商品の造成を働きかける全国規模の会議が湯田温泉において開催される予定でございます。その際には、6月に供用開始予定の天候などを気にせずにご過ごすことができる大屋根を有します「湯田温泉こんこんパーク」の活用も図りながら、DC本番に向けた機運を高めてまいりたいと考えております。

このように、新市発足から20年という節目を迎える本年を「ともに築く 元気山口」の年と位置付け、第二次山口市総合計画後期基本計画に掲げる「ずっと元気な山口」の実現に向けて、重点的に対応すべきプロジェクトを中心とした取組を力強く進めてまいります。

結びとなりますが、ふるさと山口の発展を願い、御尽力いただいております会員の皆様方に敬意を表し、改めて感謝を申し上げます。どうぞ会員の皆様におかれましては、引き続き本市の力強い応援団として、各方面においてお力添えをいただきますとともに、本市の魅力発信への御助力を賜りますようお願い申し上げます。

山口七夕会のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸、そして益々の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

山口市長 伊藤和貴

年頭ご挨拶



令和7年の年頭にあたり、市議会を代表いたしまして謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

秋草会長様をはじめ、山口七夕会の会員の皆様方におかれましては、永きにわたり、幅広く多彩な人脈を生かし、ふるさと山口の発展を願う郷土愛により、多方面にわたって御尽力を賜っておりますことに敬意を表しますとともに、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、1月にニューヨーク・タイムズ紙で本市が「2024年に行くべき52か所」の3番目に選出されるという嬉しいニュースが飛び込んでまいりました。紙面では、「西の京」と呼ばれるコンパクトなまちであることに触れられ、国宝瑠璃光寺五重塔や山口祇園祭をはじめとした本市の魅力が紹介されたところです。こうした海外の有名メディアに取り上げられたことを契機として、市内の観光地等では、国内からの旅行者や欧米からのインバウンド観光客が増加し賑わいを見せるなど、非常に注目を集めた1年でした。

また、国内に目を向けますと、元日の能登半島地震に始まり、8月の日向灘を震源とする地震では、初めてとなる南海トラフ地震臨時情報が出されるなど、自然災害の恐ろしさや備えの大切さを再認識する1年でもございました。

一方で、現在、我が国では、本格的な人口減少の局面を迎えるとともに、急速に進むIT技術の発展に伴うデジタル化の進展等により、人々の生活や価値観は大きく変化・多様化しておりまして、都市も農山村も、ともに元気なまちづくりを進めております本市といたしましては、こうした社会環境の変化に迅速に対応していく必要がございます。

こうした中、本年は、第二次山口市総合計画後期基本計画の3年目を迎え、市内21地域における防災・地域振興拠点や、小郡都市核づくりにおける社会基盤、湯田温泉こんこんパーク等をはじめとした山口都市核づくりにおける社会基盤の整備を進めると同時に、市街地及びその周辺エリア、農山村エリアにおける定住環境を整えながら、地域コミュニティの維持・継続に向けた取組など、住み慣れた地域ですっと住み続けられる地域づくりを進め、「ずっと元気な山口」の実現を目指すこととしております。

市議会といたしましても、市民の皆様のお声を真摯にお聞きし、市内21地域それぞれの個性を生かした地域づくりや福祉の向上、そして、これからの山口の発展を担う子どもたちの未来を明るくするべく、真摯な議論を重ね、真に必要とされる政策の提言を行ってまいります。

本年の干支は「巳」でございます。巳年は、「転機の年」や「実を結ぶ年」ともいわれるそうです。折しも本年は新本庁舎が完成し、市議会の議場も新しくなる転機の年でございます。我々、市議会議員一同、気持ちも新たに、諸先輩方が築いてこられた県都山口市のさらなる発展という実を結ぶ年となるよう、初心を忘れることなく、市民の皆様の負託にお応えしてまいりますので、皆様におかれましては、これまでと同様、引き続きの御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口七夕会の益々の御発展と会員の皆様の御健康と御多幸、そして、なお一層の御活躍を祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

山口市議会議長 入江幸江

第 10 回山口七夕会親睦ゴルフコンペ八木重二郎杯の報告

板井川 浩 (会員No.783)

例会通り、2024年11月6日金曜日、埼玉県入間郡毛呂山町のオリムピックナショナルゴルフクラブ イースト エーデルワイスコースにて行いました。ゴルフクラブは前回より、会員の皆さんが参加しやすいようにとオリムピックナショナルゴルフクラブに変更して行われています。西村弘文会員の紹介です。

開会にあたり、当日は10月の暑さが嘘のように、気温15℃の冷涼な気温となりました。参加者は八木前会長を始め、11名3組に行なわれました。女性も密田孝代会員、杉山さと美会員の2名が参加されました。

優勝者は、板井川浩 (いたいがわひろし) 会員、グロス111、ハンディキャップ36、NET75.0でした。準優勝は利重尚義会員、ブービー賞は奥原保会員でした。ベスグロは利重尚義会員の92、100を切られたのは利重会員のみでした。みなさんコースに苦戦されました。

優勝の板井川会員曰く、「前々回はベスグロで優勝できず、今回は100以上を叩き、ハンディとメンバーに恵まれ初優勝ができました。オリムピックナショナルゴルフクラブ イーストコースは、設計思想の根底に昔のスコットランドの伝統が生きています。このため前回はそれほど気にならなかったバンカーですが、今回はフェアウエーの幾何学的な大きなバンカーが口をあけており、よく捕まりました。そのため大きく叩きましたので、まさか優勝するとは思いませんでした」と言われました。

来年も5月9日(金)に開催を予定します、春と秋の年2回開催しています。みなさんご気軽に参加ください。誰にも優勝のチャンスがあります。女性の方の参加も大歓迎です。



【八木重二郎前会長】



【優勝：板井川さん】



【準優勝：利重さん】



【集合写真】



【表彰式の様子】

令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」の報告

ふるさと山口本部・事務局長 庄 栄一郎（会員No.475）

令和6年10月19日（土）18時から、セントコア山口で64名の参加で開催された。開催日がハロウィン（10月30日）に近いことから参加者にはなるべくハロウィンパーティー仕様（仮装等）での参加をお願いした。コスプレ、ワンポイントの小物を付け大人のハロウィンを楽しんだ。

18時から山口県立大学の田中マキ子学長の講演。
演題「山口を元気にする高等教育の挑戦」

山口県立大学はS16年開設、山口県唯一の県立大学で3学部（国際文化学部、社会福祉学部、看護栄養学部）で学生数1,378人。教育理念は、人間性の尊重、地域社会との共生、生活者の視点の重視、国際化への対応。特徴は小規模大学で、教員と学生の距離が近くかつ友達や地域との関係が近く深く、地域で学び、地域で育ち、地域を拓くオーダーメイドの教育の実施。

山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学で展開するSPARC(Supereminent Program for Activating Regional Collaboration)教育プログラムで「ひとや地域のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成」を育てている。

2040年の18歳人口は現在の7割になり、国立大学の入学定員に変化がなければこれまでの国公立大学への入学者層を全て集めても現在の国立大学の入学定員をうめられない中、各大学が生き残りもかけ、人や地域課題を捉え、教育プログラムを再構築、工夫していることがわかった。

田中学長の豊富な資料と熱く教育プログラムを熱く語られ姿に明るい未来が感じられた。

同会場で19時00分から交流会。

入江議長の乾杯のご発声で開会。開会后、京都から参加された京都府立大学の副学長の山口美知代さんにご挨拶をいただいた。

ミシュラン三ツ星の声もあるセントコア山口の最高級のホスピタリティと美味しい料理に舌鼓を打ちながら、各自のコスプレで写真も撮りながら交流を楽しんだ。

余興①は恒例のじゃんけん大会。旭水産様、竹内酒造場様、田原屋様、セントコア山口様、関さんよりも協賛をいただいた。

余興②はAKB48「ハロウィン・ナイト」の総踊り。この曲は2度目ということもあり、カッコよく踊られる女性もいてディスコの雰囲気。

余興③は「ふるさとの風～山口市民の歌～」合唱。

21時、松西副本部長による中締めで会を閉じた。



秋の紅葉ウォーキング 2024（谷中七福神巡り）

本部・副本部長 岡本 達也（会員No.670）
柴田 和幸（会員No.875）

2024年の東京紅葉ウォーキングは11月30日（土）に浅草名所七福神巡りを晴天の中、開催しました。7名参加のウォーキングと、その後8名での懇親会で締めくくりました。図-1にあるように浅草寺雷門12時スタートで七つの神社を巡っていきました。最近会員になられた柴田和幸さん（会員 No875）は趣味の一眼レフを片手に紅葉の浅草を撮影してくれました。



【図-1 浅草七福神巡りコース】

浅草寺雷門スタート⇒



【写真-1 雷門】★柴田カメラマン撮影

浅草寺（大黒天）⇒ほとんどが外国人で驚きです。



【写真-2 仲見世】

浅草神社（恵比寿）⇒

お祭りで有名な通称「三社様」に寄りました。

持乳山聖天（毘沙門天）⇒紅葉が奇麗でした。



【写真-3 持乳聖天】★柴田カメラマン撮影

今戸神社（福祿寿）⇒



【写真-4 今戸神社】★柴田カメラマン撮影

吉原神社(弁財天)⇒

縁結びの社として有名な今戸神社で少し休憩し、昔は吉原遊郭だった現在の江戸町通り、仲之町通りを通過して、女性から信仰が篤い吉原神社に向かいました。古くからあった5社を合祀した神社です。



歌川国貞「北条町の夜形」(東京美術会蔵)

【図-2 昔の吉原】



【写真-5 吉原神社】

鷲神社(寿老神)⇒

酉の市で有名な通称「おとり様」。拝殿には巨大な「なでおかめ」が鎮座していました。前日に酉の市があったため、当日は撤去中でした。



【写真-6 鷲神社】★柴田カメラマン撮影

先稲荷神社(福祿寿)⇒

浅草三十三間道の鎮守として創建されています。



【写真-7 矢先稲荷神社】完走！

水口食堂(懇親会)⇒解散

1950年(昭和25年)より浅草で定食屋として営業を始め、74年目を迎えた老舗の「水口食堂」で盛り上がり解散しました。当日は利重尚美さん(会員 No367)の傘寿のお祝いも兼ね、後から合流された柳井章雄さん(会員 No458)から、青森県の田子(たっこ)の農協さんに頼んで手に入れた大きなニンニクがプレゼントされました。



【写真-8 懇親会(浅草水口食堂)】

山口市の小中学校の英語教育の一端に触れて

ふるさと山口本部・顧問 渡邊 史信（会員No.364）

会員諸兄は既にご存じかと思いますが、平成29年に改訂された文部科学省の小学校学習指導要領により、平成30年から小学校3年生と4年生で「外国語活動」が導入され、5年生と6年生では英語が正式な教科として扱われるようになりました。この改訂の主な目的は、子供たちが将来の社会で必要とされる資質・能力を育成することで、具体的には、以下のような点が重視されています。

- コミュニケーション能力の向上：英語を使って自分の考えを表現し、他者と交流する力を養う。
- 思考力・判断力の育成：英語を通じて論理的に考え、判断する力を伸ばす。
- 国際理解の促進：異文化理解を深め、国際社会で活躍できる人材を育成する。

山口市では上記に基づいた学校教育は勿論の事、「やまぐち English Village 2024～英語村を飛び出して観光案内にチャレンジしよう！～」と銘打って、『①英語を使った活動や、留学生に瑠璃光寺を英語で案内する活動を通し、英語への興味・関心を高めるとともに、実践的コミュニケーション能力を高める。②瑠璃光寺を実際に案内する体験を通し、ニューヨークタイムズ「2024年に行くべき52カ所」において3番目に紹介された「山口」についての理解やふるさとへの愛情を深める。』事を目的に、8月に2日間の活動が開催されました。

自主的に応募した小学生14名(8校)、中学生27名(7校)計41名が参加し、指導者・運営補助としては、山口市雇用ALT6名、将来教員をめざす大学生・大学院生数名、英語教員、留学生12名、山口市国際交流員1名、市教委員会数名等が参加する大規模なイベントでした。

私は山口市教育委員会の依頼で、初日冒頭に「国際交流とは」という講演を行いました。小中学生を相手に講演するのは初めての事で、自分なりに分かり易さを旨として準備しましたが、時間の制限(30分)を若干オーバーしながら燃焼不足の感もありました。きらきらとした眼で「このじい何言うのやら・・・」という感じでしたが、後から教育長さんからご丁寧な令状と感想を頂戴しましたので、まあうまくいったのかなと一人で思っております。

私の小学生時代は、英語を勉強するという事は考えもしなくて又そういう環境もなかったわけですが、時代は変わったと実感すると共に、子供達と日本の将来に頼もしさと希望を感じた経験でした。又市教委、先生方、ALT他の方々の熱意と努力にも頭の下がる思いを致しました。

(尚本稿は第55号(9月号)に掲載するつもりでしたが締切の関係で本号になりました)以上

【ご参考とご案内】

昨年6月に西尾章治郎大阪大学総長をお迎えして、「大阪大学山口校友会」を立ち上げ、現在初代会長を仰せつかっております。その事業の一つとして、3月1日(土)に旧山口県会議事堂にて14:00～17:00の予定で以下の著名な3人の方の講演会を一般公開ということで開催します。地域貢献や人材の育成も目的とし、学生・生徒には無料で聴講していただけます。ご家族・お知り合いの学生・生徒にお勧めください。一般は1000円の参加費です。会員の方でご興味のある方も添付QRコードより是非お申し込みをお願いします。

* 山田陽一教授（山口大学工学部長/徳山高校出身）：

「半導体発光デバイスの研究開発動向」

* 紀藤正樹弁護士（宇部高校出身）：

「法と裁判の論理・議論の極意」

* 藤井英俊教授（大阪大学接合技術研究所所長/徳山高校出身）：

「溶かさないで溶接する」

**大阪大学山口校友会
設立記念講演会**

「科学と人権擁護」の最先端を
山口県出身の世界的斯界第一人者が
合同講演会にて大いに語ります

講師紹介

藤井英俊 教授 (徳山高校出身)
大阪大学接合技術研究所所長
「溶かさないで溶接する」

紀藤正樹 弁護士 (宇部高校出身)
リンク総合法律事務所所長
「法と裁判の論理・議論の極意」

山田陽一 教授 (徳山高校出身)
山口大学工学部長
「半導体発光デバイスの研究開発動向」

2025年 3/1 14:00～17:00 (受付開始 13:15～)
会場：旧山口県議会議事堂 山口市海町1-1

主催：大阪大学山口校友会
 후원：山口国際フロンティア実行委員会
 (公益) 山口県情報教育少年育成会 助成金 助成金 助成金

・学生・生徒・校友会員：無料
・一般：1,000円

お問い合わせ email: osekai@yamaguchi@outlook.jp

【リレーコラム：ふるさとの味めぐり】～探求！山口を楽しむペアリング～

原田 尚美（会員No.777）

2024年9月1日に新店舗をオープンしました「やまぐちシードル」の原田尚美です。2019年9月1日に開業し、実家の縁側販売所からはじまったやまぐちシードルですが、6年目でようやくお客様をきちんとお迎えできる環境が整いました。シードルを通じて山口の良さや魅力を県内外に発信し、出会いが広がる場所づくりという新たなチャレンジがはじまりました。

シードル 作りに至った経緯

「シードル」をご存じでしょうか？シードルとは、リンゴが原料のスパークリングワインです。現在は甘口2種類、辛口2種類を販売しています（2024年12月現在）。当初、山口市の新鮮で豊富な農畜水産物を引き立てるお酒をつくりたいという想いで山口市の地域おこし協力隊に着任しましたが、数年ぶりに食べた徳佐りんごの美味しさに感激し、原料をブドウからリンゴに変え、ワインではなくシードル 作りを目指すことにしました。

徳佐りんごの特徴

徳佐りんご組合の調査によると徳佐りんごは、他県の寒冷地のリンゴに比べて糖度が高いというデータがあります。また、製造委託先の信州まし野ワイン株式会社の須山醸造家からは、「山口のリンゴは長野のリンゴに比べて香りが華やかでシードルに加工しても維持されやすい」との評価をいただきました。

また、今年6月には一般社団法人日本ソムリエ協会 山口支部の例会で田崎 真也会長に辛口のUMIシードルを試飲していただきました。以下、テイastingコメントです。「綺麗な色調、気泡のきめも細やか。色合いは少しグリーンがかった淡い透明感のある輝きのあるイエロー、香りは瑞々しい黄色系のりんごの香り。発酵の副産物による洋梨のような香りと、柑橘系のグレープフルーツのような香り。そして口に含むと、アルコール由来のまろやかでふくよかな印象、エレガントでバランスのとれた酸、最後にフレッシュな印象とともにレモンなどの黄色系の柑橘の香りがフィードバックする。」大きな自信になったと同時に山口の食の豊かさを改めて実感しました。海老に塩こしょう、オリーブオイル、レモンを絞ったカルパッチョや白身魚の薄造りのしゃぶしゃぶなどが良いのではないかと具体的なメニュー提案もいただき、このペアリングは山口市産の食材で今年必ず実現させたいことのひとつです。

新しいチャレンジ

新店舗では2025年春から喫茶営業を開始します。シードルをはじめ、リンゴのノンアルコールドリンク、それらに合う軽食を提供予定です。また新しい出会いや人の繋がりが広がるようなイベントを計画しています。山口の魅力をシードルという新しい切り口で届ける、地域のプラットフォームを目指して次のステージも邁進していきます。

やまぐちシードル SHOP

住 所：山口市小郡山手上町 13-10

営業日：木～日 11：00～16：00



【田崎会長と筆者（原田）】



【新店舗外観】

パラリンピック柔道女子 日本人初の金メダル 廣瀬順子

吉富 久悦 (法人会員No.29 株式会社小郡衛生公社)



株式会社小郡衛生公社代表取締役の吉富久悦です。会社経営の傍ら青少年健全育成の為、柔道の指導をしています。廣瀬順子は教え子になります。

パリパラリンピック柔道女子57キロ級（弱視）で日本人初の金メダルを獲得した廣瀬順子の活躍は、まさに歴史的快挙と言っても過言ではありません。この快挙は、お家芸と言われる柔道において不思議に思われるかもしれません。

視覚障がい者柔道は、組み合った状態から始まります。健常者の柔道は、二間（3.6m）の間合いから、審判の「始め」の発声により、少しでも相手より良い位置を握る、組み手争いから始まります。この組み手の上手さで、身体能力の高い外国人に力を発揮させないで投げて勝つ、これこそ日本柔道の強さなのです。

廣瀬順子は組み合っただけでなく、全試合一本勝ちという偉業も成し遂げました。これは知られていませんが、準決勝の対戦相手に肘関節を極められました。私の目で見ても完全に極まっていたので、これは「参った」をすると思いました。しかし耐えしのぎ、見事逆転勝ちを収めたのですが、

試合翌日の検査で、靭帯断裂という重傷でした。決勝前に、私に彼女が SNS で「肘が痛くて、決勝は勝てないと思います」と弱気な発言をしましたので、「あきらめるな、必ず勝てこい」と動画で激励をしました。

今思えば、酷いことを言ったと、少し反省しております。

さて、彼女の柔道とのかかわりは、小学5年生の時に、小郡柔道スポーツ少年団から始まりました。健常者として競技を始め、当時から物静かで、コツコツ努力する子でした。

彼女の強さの秘訣を聞かれます。私が一番に思うのは「素直さ」です。これは、柔道に限らず様々な場面において共通する、上達の秘訣であると思います。中学生では、中国大会に出場、高校ではインターハイ出場と着実に力をつけていきました。しかし、大学進学時に彼女を病魔が襲います。膠原病で一週間くらい高熱が続きました。一命は取り留めたものの、高熱により網膜が焼け、大半の視覚を失いました。そこから多くの出会いや支えがあり、彼女は柔道に戻ってきました。そ

んな彼女の弱音を吐くどころか、いつも笑顔を決やさない姿に、私は視覚障がい者であることを、不意に忘れてしまうこともありました。

私はある時、聞きました。「なんで順子はいつも笑顔でおれるの？」と。彼女の答えは「一度しかない人生じゃないですか、後悔したくないです」でした。19歳で光を失ったのです。わかっています、同じことが言えるでしょうか？五体満足の方は、どんな生き方をしているか、自信を持って後悔のない生き方が出来ているといえるか？

私たちの毎日には当たり前なことで溢れています。健康で当たり前、愛する人がいてくれて当たり前、しかし本当は世の中に、当たり前の事は一つありません。だからこそ「当たり前」が「感謝」に変わったとき、廣瀬順子みたいな生き方ができるのではないかと思います。

彼女の笑顔を見るたびに、私は力が湧いてきます。順子の笑顔は私の原動力の一つです。



山口コア学園

神山 恵美子（法人会員No.35 (株)クリエイティブ・トゥエンティワン）

山口出身どころか、親戚も、友達もいなかった私が、なぜこの七夕会のお仲間に入れていただいたのか、私の仕事と一緒に少しご紹介させていただきます。

私の父は、株式会社コアという今は東証プライムに上場しているコンピュータ関係の会社の創業者です。そんな父に今から40年ほど前、北海道帯広市から、コンピューターの専門学校誘致のお話を頂きました。父は三重県出身で、帯広は山口と同じく、ご縁があったわけではありませんが、社会貢献の一環としてそのお話を受け、学校法人を設立、コンピュータ専門学校の設立準備を始めました。この話が他のエリアにも伝わり、結果日本全国9の都道府県で専門学校を設立する運びとなりました(現在9拠点13校)。そしてここ山口市からもお声がけをいただき、設立したのが「学校法人山口コア学園」で、1989年(平成元年)に「山口コンピュータ専門学校(現山口コアカレッジ)」を開校したのです。

一般的に専門学校というのは家族経営が多いのですが、コア学園の場合は、父の会社で役員等をした社員が事務長や理事長をし、東京の本部が中心となり学校経営を支えていくというスタイルです。というのも、私立学校法で、「理事は4法人しか兼務できない」「うち理事長は2法人まで」と決まっているからです。当初は株式会社コアの一部門がその役割を担っていましたが、上場準備のタイミングで、株式会社クリエイティブ・トゥエンティワン(以下C21)という別の組織を作り、そこが引き継ぐことになりました。

私は、学校を卒業してから約10年間、日本IBM株式会社にエンジニアとして勤務をしていましたが、長男の妊娠をきっかけに教育の仕事に興味を持ち、父に相談、このコア学園グループに転職しました。当初から帯広コア学園の理事長の仕事の主として携わっていましたが(その後秋田のコア学園の理事長も兼務)、学園グループの中で一番規模の大きい山口コア学園をさらに発展させたいと自ら志願し、2020年4月に山口コア学園の理事長に就任(帯広は副理事長に)、同じタイミングでC21の社長に就任しました。

2020年といえば、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を振るっていた時。山口コア学園は山口コアカレッジだけではなく、山口コ・メディカル学院(1996年開校)という医療系の専門学校もあり、東京からの出張は教職員から大変恐れられ、自分の学校なのに訪問することができない、悶々

とした日々が続きました。しかし2023年5月に感染商法上5類に移行した頃から、徐々に、のびのびと、交流ができるようになりました。それ以来、山口には月に1度ペースで行き来をし、仕事だけではなく、食や文化を楽しんでいます。

山口コア学園では、その設立の経緯から、理事や評議員に山口市長や市議会議員、商工会議所の専務理事等に担当いただいております。そこでご縁をいただいた入江幸江市議会議員からお食事のお誘いをいただいた時に、山口赤十字病院の申神正子先生をご紹介頂き、ここ七夕会に入れていただきました。それから山口のお友達も徐々に増え、レノファ山口のサポーターにもなり、山口が第2の故郷になりつつあります。

2025年の目標は、「協賛会組織の再構築」「学校を活かした具体的な地域貢献」「海外研修制度の確立」ですが、個人的には趣味の一つが山登りなので、山口で山活をしたいと思っています。遊ぶこと、食べるのが大好きなので、何か機会があればお誘いいただきたいですし、もちろん専門学校として地域の皆様とコラボレーションできる機会があれば、是非お声がけいただきたいと思っています。



女将劇場60周年～時代とともに～

宮川 和也（法人会員No.7 株式会社 常盤）

西の雅常盤の代表取締役宮川和也です。七夕会の会員の皆様には平素から多大なるご厚情を賜り本当にありがとうございます。西の雅常盤の女将劇場についてご紹介させていただきます。

女将劇場主催者は私の母、宮川高美です。宮川高美は、3代養子の3代目の女系家族で四歳頃から琴と踊りを習わしていただきまして、小学校から帰ったら、三流旅館で家内工業でしたので、学校から帰っても旅館の手伝いを行い、琴と踊りは毎日練習していました。

そうこうしているうちに、作曲や踊りの振付なども自分で考えることができるようになります。高校の時には、琴の部活の部長になり、県立大学の前の短大で琴の部長で先生の代わりをお手伝いすることが出来るようになりました。

短大卒業してから、旅館の事務経理や、調理場の手伝いや雑用をして、二十歳になって自分から志願して女将になりました。

木賃宿みたいな旅館だからお客様が何とかして増やして行こうと思い、20歳の時に、女将劇場の前身である女将ショーを立ち上げました。

出演者は、皆さん高齢ですが下足番の社員様や、メイド配膳係、売店の社員様、親戚の皆さん達で女将劇場を立ち上げました。

何しろ、若い人は居ませんで、本当に苦労しました。旅館も木賃宿ですか、水漏れの時は、桶を持って躍るとか、自分で芸を作りました。

宴会場も小さくてできないこともありまして。自分がショーを作る速度と皆様が覚える速度が合わず苦戦もしました。

その時、山口大学の学生が、何かアルバイトはないかと来ましたので、私の芸を教えると直ぐ覚えてくれました。このやり方なら、自分の芸を作り出していけると確信しまして、どんどん作る教える創作活動をして、お客様に打ち出していきました。

ただ創るだけではなく、時代に合ったものを打ち出していかなければと思ひまして、その時SLが走るのを聞いてSL太鼓で表現したら面白いと思ひSL太鼓を作曲しました。

それが当たりマスコミにクローズアップしました。

時代に合ったものを、踊りや太鼓で表現したり、ショーに取り入れる創作活動をしました。

バブルがはじけた暗い時代は、正統派でなくハ

チャメチャに明るいものを楽しいものを創作していきました。

それから175の芸を考え、女将劇場は時代とともに創作活動をしてきました。

親子3代に通用する芸、インバウンドの外国人の人には言葉が無くても笑ってもらう芸を考えました。

時代に合った芸を考えて、打ち出してまいりました。

今年女将劇場は、60周年を迎え、毎日命がけで続けてまいりました。これからも、70周年に、向けて頑張つてまいります。

皆様宜しく願いもうしあげます。

《ホームページでの宣伝》

TVでお馴染みの「名物大女将と若女将」演出の「女将劇場」を開催中です。

踊りに太鼓、マジックショー、琴演奏など盛りだくさんの芸で大好評！

毎晩20:45から約1時間強程度、開催致しております。ぜひ、お越しくださいませ。

※女将不在時は、スタッフによるオリジナルショー、年末年始は休演とさせていただきます。

※当日の会場状況により1Fロビーにて開催させていただく場合がございます。

詳細はチェックイン時フロントにてご確認くださいませ。

■女将劇場 御観覧料のお知らせ

女将劇場 御観覧料のお知らせでございます(2023年10月30日より)。

●ご宿泊のお客様：御観覧料無料。

●外来のお客様：大人1名様あたり御観覧料1,000円(税込)。小学生以下は無料。

1F、フロントにて現金でお支払いをお願い申し上げます。

さらにパワーアップ 子どもさんからお年寄りまで元気がでる

西の雅 常盤 TV・雑誌でおなじみの

女将劇場

維新黎明の湯

おかげさまで女将劇場は56周年を迎えることができました。
女将70芸の特技の中から、每晚8時45分より好評開催中

麦面
トコトヤレ節
松づくし
マシツクシヨ
水芸
花魁早変わり
明治維新50周年記念
長州5太鼓
ばらてゆく
琴太鼓
胡蝶の舞
髪筆文字
女将の店
令和
夜月松陰の里傳の里

〒753-0056 山口市湯田温泉(1)16-1
TEL.083(922)0091(代) FAX.083(924)3080
http://www.n-tokiwa.co.jp

御礼 山口きずな音楽祭 10+6

ふるさと山口本部 幹事 杉本 理恵子（会員No.582）

山口きずな音楽祭プロジェクト代表の杉本理恵子です。今年で 10+6 年目を迎えた「山口きずな音楽祭」。10+6 とは、私たち親世代が 30 代の頃に始めた事業に 10 周年から子世代が加わり、今では立派に事業を運営しています。+6 は次世代が加わったという喜びの意味です。

「山口市は日本で初めてクリスマス祝った聖地」

ナバラ州パンプローナ市と山口市との御縁は、中世ナバラ王国の宣教師フランシスコ・サビエルと守護大名・大内義隆との出会いに基づくものです。二人の絆によって、ルイス・フロイス「日本史」等に記録された「日本で初めてのクリスマスミサ」（1552 年）という史実が生まれました。



「15 年目の奇跡、スペインの歌姫が山口市へ」

2023 年 12 月 1 日、「クリスマス市セレモニー」が行われた山口サビエル記念聖堂に響き渡ったのは、母国スペインにて歌姫と讃えられるアマイア・ロメロさんの歌声。彼女が歌った『Yamaguchi』は、パンプローナ市「ヤマグチ公園」での青春時代を綴った楽曲です。二つの姉妹都市が「音楽」というキーワードで絆を深めた瞬間であり、「クリスマス市」において将来へと語り継がれる感動的なシーンの一つとなりました。なお、彼女は初来日した山口での日々を SNS にて発信。山口市長表敬訪問の動画はたった 1 日で 404 万回再生を超え、SNS 担当の若者や大学生たちは世界的歌手の影響力にも驚嘆しました。



「音楽で地域をブランド化」

「日本で最初にクリスマスを祝った」という、ロマンあふれるまちの歴史。私たちは歴史に学び、平和で寛容な心の文化が開花するまちの未来を創造しようと、「12月、山口市はクリスマス市になる。」という合言葉を創りました。その中で「大内文化」を築き導いた先人に敬意を表し、様々な芸術文化から「音楽」に特化した歴史継承事業を実施。それが、今年で10+6年目を迎えた「山口きずな音楽祭」の成り立ちです。

故亀渕友香さん、楽曲「きずな」との運命的な出会い

サビエルと大内義隆の絆を象徴する楽曲として、私たちが歌い続ける『きずな』は、日本を代表するゴスペル歌手・亀渕友香さんの楽曲です。お会いした2009年から亀渕さんが亡くなるまでの8年間、市民クワイアと一緒に『きずな』を歌い繋いでくださいました。

「楽曲の生みの親、湯川れい子さんと宮川彬良さんとのきずな」

「毎年、クリスマスに『きずな』を歌うまちがある」と、亀渕さんがさらに繋いでくださったのは、『きずな』作詞者・湯川れい子さん、同作曲者・宮川彬良さん。そして、LE VELVETS、ダイナマイトしゃかりきサ〜カス、The Voices of Japan など、『きずな』による「絆」は、さらに広がり続けています。その中でアーティストの皆さんは、毎年クリスマス市へ訪れることを「お里帰り」と、深い愛着をもってご参加くださるようになりました。

楽曲『きずな』は世界へ

楽曲『Yamaguchi』を宮川先生がオーケストラに編曲し、アマイアさんと山口在住の大学生たちと一緒に演奏しようという新たな企画が始動。470年前の歴史上で生まれた絆は現代へと受け継がれ、今まさに「クリスマス市民文化」が開こうとしています。今年は両市の姉妹都市締結45周年の節目を迎えます。ぜひ、山口きずな音楽祭の応援団である山口七夕会の皆様には歴史的な瞬間を「特等席」でご覧いただきたいです。いつも本当にありがとうございます。



【2024年に開催された「山口きずな音楽祭（山口市民会館 大ホール）」】

防長創作会「大作品展」～作楽作（つくることを楽しみとなす）～

ふるさと山口本部 幹事 森永 友世志（会員No.727）

防長創作会を主宰している森永友世志です。防長創作会について紹介させていただきます。

2年前の「しし鍋の会」で同席した仙哲（原田哲也 会員No.759）さんとおいしいシシ肉をつつきながら、「また作品展ができたらいいいですね。」と話をしてから、その年の9月にバタバタと「防長創作会大作品展」と銘打ってやってしまいました。気持ちの「大」ではあるけれど、作品の数が大となるかが、大きな問題でした。昔の仲間、FBフレンドを頼ってなんとかまあまあの数を集めて開催することができました。

防長創作会とは、歴史を愛好し、歴史に学び、そして心動かされた題材について、心のおもむくままにジャンルにとらわれない多様な作品となすこと。そしてそれを年1回、山口市菜香亭で発表することを活動内容とし、その作品展のサブタイトルを「作楽作（作ることを楽しみとなす）」としております。

展示内容につきましては、多くの皆様に山口県の歴史に広く親しみ、関心をもっていただけるよう、幕末維新や大内時代を主なテーマとはしております。しかし、それにこだわることなく、自由な発想の幅広い作品を取り揃えて、「作品を出したい人、持って来て」に賛同され、出展され作品の数々を、緩い内容であっても大きな心で鑑賞いただけるよう、大作品展とすることとしました。したがって、コアな歴史ファンには「これは、どうかい？」と顔をしかめ、物議をかもす内容も含まれておりますが、ご勘弁いただくこととしています。

そして昨年なんとか「第2回大作品展」を9月に開催することができました、仙哲さんの作品の豊富さには毎回感心するばかりですが、宇部書道協会の奥剛二（会員No.704）さんの書や縄田和子（会員No.620）さんお持ち寄りの本格的な絵画作品も楽しいものです。そして、去年は、プロの漫画家である苑場凌さんからもイラストを出展いただき、花を添えていただきました。また山本裕一さんの1110本もの綿棒を組み合わせ、維新の精神世界を表した造形作品もありました。しかし何といてもAIが生成した画像「大田絵堂の戦い」などの登場は、「そう来るのか」という賛否はありましたが、非常に興味深い楽しめる作品でした。

今年も9月下旬に開催予定ですので、七夕会の会員の皆様にも作品をお寄せいただけるとありが

たいです。

最後に「松前さん防長創作会は、防長史楽会のクラスターのひとつですよ。志はつながっていますよ。」

【創作展内容】墨絵、イラスト、写真、工芸品、絵画、絵巻、小道具、フィギア、生成画像、動画、プレゼン資料、解説書、造形、まんが



【AIが生成した画像 大田絵堂の戦い】



【1110本の綿棒を組み合わせて維新の精神世界を造形】



【螺旋が切られた塩ビ管製のアームストロング砲】



【出品者】



【山口詩】



“片付け”で未来が変わる…持続可能な山口を目指したい!!

矢吹 信子 (会員No.637)

60代になり昭和の10代~20代の頃の山口中心部の賑わいを懐かしく思い出すようになりました。商店街のお店も活気があり人通りも多く出向いていけばワクワクして楽しんでいました。時代の流れとともに空き店舗、人口の構成も変わり高齢化率も今や35%を超えて全国でも3位という位置づけです。3人に1人は65歳以上ということになります。それに平行して人口減少もあり、山口県は空き家率も高い水準です。中国5県でトップです。空き家が増えると周囲も自然と草木が生い茂りまち全体がどんよりしてきます。個別の家も同じ事が言えます、核家族化している現在、子供が独立していくことで、これまでの暮らしで使用していたものが代謝していけばよいのですが、そのままの状態です。これは安全確保や防災の面でも問題です。

モノの放置や落下がつまずきの原因となることがをしたり、避難通路を塞いでしまったり命に関わる事態にもなりかねません。使えない状態になると廃棄せざるをえないことにもなり、『災害ゴミ』を大量に作ることもなります。そうなればいっそう温暖化につながり、環境を悪化させてしまいます。やはり、日頃から暮らしを見つめて快適にモノの整理や片付けをしておく事が大切です。環境を考えまだ使えるモノはリユースする。

例えば衣類をネットやショップで売る、山口では市の施設(リサイクルプラザ)で寄付できます。回収して必要な方に提供されます。また思い出として処分できなかった子供の制服や着物も引き取りをしてくれています。

パソコンなどの小型家電はただ廃棄をするのではなく資源としてリサイクルしてほしいです。

そんな1人1人ができることをするだけで周囲の環境保全に繋がると信じています。

私はそんなコンサルやサポートをいたしております。

山口に実家があり、これからどうしようかとお困りな方への整理や片付けのコンサルやサポートも担っています。みんなが住み続けたいと思い、住み続けられる山口のために、頑張ってきたと思っています。

整理収納マイスタイル 矢吹 信子

NPO 法人ハウス NPO 法人ハウスキーピング協会認定

整理収納アドバイザー1級 2級認定講師

山口県自主防災アドバイザー(防災士)

住宅収納スペシャリスト 福祉住環境コーディネーター2級

矢吹 信子

☎090-1352-4271 ✉cfc31490@syd.odn.ne.jp

HP 整理収納マイスタイル←検索

<https://seirishuunoumystyle.com/>

ライン公式アカウントお友達募集

<https://line.me/R/ti/p/%40odu5246x>

インスタ公式

<https://www.instagram.com/seirishuunoumystyle?igsh=MXBhYnRnaDJ0N3dicg==>



【空き家の解体】



【現場でのコンサル】



【山口市リサイクルプラザでのリユース】

「神田京子大独演会 in 山口 ～どこに住んでもできるんだ～」KDDI 維新ホールで待ってます!!

(新会員) 神田 京子 (会員No.889)



2019年11月。県政資料館にて開催された主人(詩人 桑原滝弥)参加の詩のイベントにて私もゲスト出演があり、講談「炎の歌人 与謝野晶子」を披露致しました。これが初山口!文化薫る山口に暮らす人々や風景に魅了された瞬間でもありました。

山口宇部空港に降り立った時、その余白の多さにビビッと来ました。続いてリムジンバスでたどり着いた新山口駅前のスッキリとした風景にビビビツとなり、さらに山口線の車窓から見える景色の豊かさ、高校生の礼儀正しさにビビビビビ…、そしていよいよ山口駅に降り立って、ビビビビビビビビビビ……。 「なんかいいなあ～」と…。 あっという間に東京から山口市への移住を決めたのを懐かしく思い出します。 都内寄席の正月興行を終えた2020年2月に品川区から山口市へと引っ越し。多くの荷物を断捨離し、必要最低限の家具や衣装や仕事道具を業者さんに運んでもらい、自分たちは飛行機でビューン。これから幼稚園に入園する我が子連れて家族で新天地へ。もうワクワクしかない移住。それが約5年前です。

早いもので、息子は小学2年生!山口弁を流暢に話しながら、元気に亀山公園や商店街を走り回り、主人は中原中也記念館主催「ぼうしの詩人賞」の審査員を毎年勤めさせて頂き、私は県内各所で寄席や講談会を開催したり、テレビ山口tys「mix」やKRY山口放送「お昼はZETTAI ラジTIME」のレギュラー出演を勤めさせて頂きなど、県内の皆様にも顔や声が知られるようになって来ました。ついには「七夕会の夏の集いで講演してくれませんか」とオファーをいただき、【「講談 渋沢栄一伝」を新1万円札にちなんで1万人に伝えるプロジェクト!大行進中!!神田京子の大挑戦とは!?!】(現在1万人中7千人を超えました!)と題した講演を、当日ご参加73名様の前でお届けいたしました。大変熱心に聞いてくださり、「KDDI 維新ホール1500席を埋めたい!」と目標宣言すると、「七夕会の今日のみんが本気を出したら、1人10人づつ連れて、あっという間に700人になるぞお～」と、天井を指差して集合写真を撮って下さいましたね!力が湧きました!!ぜひ当日は、横断幕を持って盛り上がってくださりますことを期待しております!!

そんな私ですが、地方移住には理由があります。もちろん子育てのために…もありますが、「こういう生き方もあるよ!」と、自身の生き方を通して広く世の中に示したいのです。

- ・固定観念に捉われず、色々な生き方があっていい。
- ・この世に生まれた命。強いものも弱いものも、それぞれの命を響き合わせ、調和することができたら素敵だ。



何事も夢中になる性格の私ですが、器用な人間ではありません。優等生だった中学高校時代は先生から期待されてリーダー的な存在になることもありました。しかし、いつも孤独。窓の外を眺めては「早く大人になりたい…」と願い、本を読んだり勉強に打ち込みました。しかし勉強は、新しい発見の喜びもありますが、同時に世の中の矛盾にも気が付きます。言葉にならないモヤモヤをどう処理したら良い

か…。そんな中、大学時代に講談に出会い「これだ！」と思い入門。社会への疑問を起点に物語を作り、人前で話し、共感を得ていく…というのが講談だったのです。ただ、修行を重ねていくうちに「講談の役割」についてもっと大きな可能性を感じ始めました。東京や大阪で研鑽し芸を充実させていくことはとても大切なこと。でも他にもっと社会的な役割があるのではなかろうかと思えてきたのです。

もともと時代の空気を読む講談師。時に空気に寄り添い、時に空気を破りながら、あの手この手で手法を変えつつ、現状よりも世の中が良い方に向いていくことを願い、張り扇を叩き続け、舌を耕し続けてきたのが歴史です。言葉を自在に操りながら、新しい時代の空気も作っていける。閉塞感を感じる時代に講談が流行るのはその為です。時代の転換期こそ、改めて歴史を多角的に学び、発見し、明日をしなやかに切り抜ける力をつけていかななくては！！例えば自殺者の数も講談で減らせるかもしれない。大都会では人が多すぎて、伸びる命も押しつぶされてしまっている…。都会が窮屈なら、ゆとりのある地方に引っ越せばいい。誰かのそばで、誰かの背中をそっと押してあげることができるのが「講談」なのです。

今回は長州出身の偉人達と共に、新しい時代を作っていった公益の追求者「渋沢栄一」を取り上げます。また、かの有名な「錦の御旗」が山口で作られていた！という驚きの事実を、分かりやすくエネルギーにデジタル絵巻と共にお届けします。サプライズゲストの登場もお楽しみに！

実は、真打昇進後に授かった一人目の子はこの世に誕生しませんでした。二人目が出来て、嬉しくて嬉しくて、「この子と一緒にいたい」「東京は通う街で良し」と、誕生の瞬間から夫婦で移住を決めました。保活することなく手元で育て、幼稚園入園時に地方へ飛ぶと。自分の人生は自分で決めなくちゃ。きっと後悔します。

「どこに住んでもできるんだ！」と誰もが思えるように、地方移住を当たり前のスタイルに持っていきたい！！そういった思いも込めて、山口移住から丸五年のタイミングで1500人規模の大独演会決行を決めました。

どの命も必ず誰かの役に立っている。あなたのおかげで私は生きている。生きやすいところで命を燃やそう。どこに住んでもできるんだ！いつからでもできるんだ！！1人の声は小さいけど、1000人集まれば大きくなる。1000人は東京・有楽町よみうりホールで達成済みだから、次(2025年2月24日)は、山口・KDDI維新ホールで1500人だ！！どうか応援のほど、よろしく願い申し上げます。



【詳しくはこちら】

●かんだ・きょうこ●
1999年7月二代目神田山陽に入門。山陽他界後は神田陽子に師事。令和3年度(第76回)文化庁芸術祭賞優秀賞、他多数受賞。夫は詩人・桑原滝弥、一児の母。古典講談の他「金子みすゞ伝」「渋沢栄一伝」など自作の講談で全国行脚中。モットーは「講談で日本を元気に!!」。

芸歴二十五周年記念 ● 山口移住丸五年記念

神田京子 大独演会 in 山口

感謝 神田京子

どこに住んでもできるんだ!

講談 神田京子

デジタル絵巻講談

鳥羽伏見の戦いと錦の御旗

緋天竺色

巨大画面

新紙幣発行記念

KDDI 維新ホール

2025年2月24日(月) 休

開場 12:30 開演 13:30

チケット

- シブサワ座 (1席座前) 10,000円 (150席限定 ※京子坐席25席非予約制 ※ミニ座席付付き)
- 一般指定A席 (3階席) 5,000円 (40席)
- 一般指定B席 (3階席) 3,000円 (40席)
- ※未就学児入場不可 ※全席指定 ※当日は500円増

プレイガイド

- ◇チケットぴあ Pコード 530-313 <https://t.pia.jp/>
- ◇KDDI維新ホール ホール運営事務局
- ※1階席チケットの申込電話:083-922-5727(営業時間 9時~17時) ※ 第2・第4火 曜日休
- ◇山口情報芸術センター

主催

神田京子大独演会 in 山口実行委員会

後援

山口市、山口市教育委員会、(公財)山口市文化振興財団、
防府商工会議所、萩商工会議所、長門商工会議所、tysテレビ山口、
KRY山口放送、yab山口朝日放送、山口ケーブルテレビ株式会社

< 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん >

《令和6年9月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会員番号	氏名	住所	法人会員
883	田坂 詔子	山口県山口市	山口日産自動車株式会社
884	乃木 章子	山口県山口市	旭水産有限会社
885	伊藤 博明	山口県山口市	株式会社 常盤
886	伊藤 啓子	山口県山口市	株式会社 地域情報新聞
887	廣 政昭	山口県山口市	株式会社 技工団
888	井川 和士	神奈川県横浜市	有限会社 劇団角笛
			マルシフードサービス株式会社
			社会福祉法人青藍会
			株式会社セブンシステム
			株式会社ベルミューズ
			一般社団法人日本自動車連盟山口支部(JAF 山口支部)
			BRAIN SIGNAL 株式会社
			弁護士法人 末永法律事務所
			株式会社アドギルド・ジャパン
			公益社団法人 山口被害者支援センター
			株式会社 小郡衛生公社
			株式会社 エフエム山口東京支社
			株式会社 竹内酒造場
			C & C 山口
			湯田温泉旅館協同組合
			公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
			株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン
			株式会社 エボリューション
			株式会社 原企画

令和7年1月10日現在の会員数：個人会員380 法人会員24

< 令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部「酣祭(たけなわさい)>

- 日時：令和7年3月1日（土）18：00～21：00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 内容：【講演会】18：00～18：50
講師：岡田かずえ（熊本のストーリーテラー） 共演：真野秀慈（ギタリスト）
演題：岡田かずえ描きおろし『種田山頭火物語』他
【交流会】懇親会 19：00～21：00
- 会費：7,000円（非会員は+500円）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。
- その他：山口市で開催されるパラバトミントンのミニアジア大会の参加者（日本、台湾、韓国）が10名程度（東京・パリのパラリンピックのメダリストも）参加予定。

< 山口七夕会 第11回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ>

- 日時：令和7年5月9日（金）8：30 キャディーマスター室前集合
- 場所：オリムピックナショナルGCイースト エーデルワイスオーキッドコース
埼玉県入間郡毛呂山町阿諏訪154
- 会費：プレー費+飲食費（昼食/表彰式：各自精算）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< 令和7年度山口七夕会ふるさと山口本部音楽祭“輪～RIN～”>

- 日時：令和7年5月17日（土）18：00～21：00
- 場所：山口日産ポルシェセンター（山口市大内千坊6丁目2-1）
- ゲスト：ゲスト：重藤千賀子（尺八）、杉原紀子（箏）、照喜名仙子（パーカッション）
- 料理：セントコア山口的ケイタリング
- 会費：調整中

<山口市役所より>

まもなく完成！！ 山口市新本庁舎棟



山口市新本庁舎は、「白い鐘塔に佇む、ひと・まち・未来にやさしい市民の丘」を基本理念に計画、設計、施工を進めています。

一期工事として令和5年3月に着工した山口市新本庁舎棟の新築工事は順調に進んでおり、令和7年3月に完成（竣工）を迎え、ゴールデンウィークの移転を予定しています。

新本庁舎棟の特徴の一部をご紹介します。

快適な窓口サービスを提供します

お引越し・結婚などを起点とした様々な手続きを集約。総合窓口化し手続き時間の短縮を図ります。お悔みコーナーを設置し、手続きのご案内・申請書の作成・証明書の取得サポートなど御遺族の負担を軽減します。あわせて、デジタル技術を活用した書かない窓口を順次拡大します。



災害に強い庁舎になります

新本庁舎棟は柱頭免震構造を採用し、大規模地震発生時にも揺れにくい構造です。被災後すぐに業務を再開できる建物となっています。

また、災害対策本部、消防本部など災害対応関連部署を近接配置することで、連携を強化しています。



柱の上に設置された免震装置。地震時には変形して上の階に揺れが伝わらないようにします。



環境にやさしい庁舎としてZeb Readyを取得しました

建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の最高ランクである5つ星を獲得し、エネルギー消費量の50%以上を削減するZEB Readyを認証取得しました。また、人の体に優しく快適な天井放射空調設備を採用しています。



執務室に設置された天井放射空調パネル

Topics

市内の小学生や建築を学ぶ大学生など多くの人が現場見学に来ています。未来を担う子どもたちに説明する現場監督さんはすこぶる力がこもっています。



現在工事中の新本庁舎棟の外観

山口市新本庁舎整備推進室

☎ 083-934-4151 ✉ honchosha@city.yamaguchi.lg.jp

📍 〒753-8650 山口県山口市亀山町2番1号



特設サイトではドローン動画を紹介しています。右のQRコードよりご覧ください。

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

6月号(5月中旬まで)、9月号(8月中旬まで)、1月号(12月中旬まで)

★投稿提出先

下記に電子データ(Word、形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(庄 栄一郎): ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、今後、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合 : seki@8011.jp (関 周 宛)

郵送の場合 : 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

< 重要 > < メールアドレス登録のお願い >

2025 年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員 380 名のうちでメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信してください。

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

◎会の運営等に関するご意見があれば下記までお寄せください。

★事務局(山口市企画経営課内) 〒753-8650 山口市亀山町2番1号 TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

【編集後記】

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

さて、今回の表紙の写真は令和6年12月7日(土)の龍福寺の紅葉。昨年1月、ニューヨーク・タイムズ紙に龍福寺の紅葉が紹介されたからでしょう、沢山の方が写真撮影に来られていました。ちょうど山口大学の学生が着物で来られていたのでモデルになってもらいました。

在原業平は、『ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くるとは』と詠みましたが、3月に県庁退職のはみだし県庁マンは『ちはやぶる 神代もきかず 龍福寺 からくれなゐに 人くるとは』。

2024年に世界で行くべき52か所の第三番目に紹介された山口市ですが、令和6年は心配していたオーバーツーリズムもなかったように思います。もっともピークは遅れて発現するのが世の常。ニューヨーク・タイムズ紙効果が本格的に出てくるのはこれから、令和7年、令和8年ではないでしょうか。

伊藤市長も紹介されていますが、まもなく山口市新本庁舎棟が完成、湯田温泉こんこんパークは6月供用開始です。屋根葺き替え工事中の国宝「瑠璃光寺五重塔」は5月頃から足場の撤去が始まり、上から少しずつ見えるようになるそうです。まさにグッドタイミング。山口市は幸運を持っています。

1月号は法人会員からの寄稿が3件もありました。執筆していただいた方とは七夕会懇親会等で何度かご一緒していましたが、こうして執筆していただくことばかりで目から鱗。七夕会会員同士、講演交流会と一緒に飲み、話し、踊るに加え、さらに執筆を通してより深く親交を深めていくことが大切ではないでしょうか。法人会員のみならず、各会員も積極的に寄稿されませんか。

今回寄稿していただいた講談師 神田京子さんは、令和7年2月24日(月・休)KDDI 維新ホールで『山口移住丸五年記念 神田京子大独演会 in 山口』を企画されています。令和6年度ふるさと山口本部の夏の講演交流会でも講演していただき、「KDDI 維新ホール 1500席を埋めたい！」と目標宣言されました。神田京子さんの目標の一助となればと、七夕会に入会を勧め、1月号への寄稿をお願いしました。

秋草会長が会長挨拶で、「この会を使って何かのイベントを成功させるとか、人を集める手段にするといった実際に活用できることが必要ではないかと感じます」と書かれています。

その成功例第一号になれば、と思っています。

※「神田京子大独演会 in 山口」A席(5,000円)のチケットは庄も預かっています(080-1912-1800)
機関誌編集長(ふるさと山口本部事務局長) 庄 栄一郎